

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

4月初旬、信州大学で開催された信州大学大学院地域社会イニシアティブ・コース同窓会総会と新入生歓迎会参加のため松本に向かう。新しい時代に対応

するための大学改革が急速に進み、信州大学修士課程の大学院は、「理学」・「工学」・「繊維学」・「農学」・「生命医学」の5専攻による「総合理工学研究科」が今年誕生。残る「人文科学」・「教育学」・「経済・社会政策科学」の文系研究科の統合がこれからの課題だ。

6名の新入生を囲んだ歓迎会は、社会人として学びに向き合った人達との楽しい出会いの機会でもある。訪日してまだ日が浅いブラジル日系4世の佐藤繁レアンドロさんは、13歳でジェットロビネス日本語アートを受験するなど日本語が堪能、

能、自国での外国人労働者等の労働についての研究がテーマだ。清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科教員の森本さんは、旅行業や観光サービス実務でのインバウンド現

などの実績を持つ青年農業者の熊澤さん。愛知県からのUターンの利点を活かした、目線を変えての販路を消費

者目線での研究がテーマ。3月に国立障害者リハビリテーション自

## 生かされているからこそ学びと真正面から楽しんでほしい

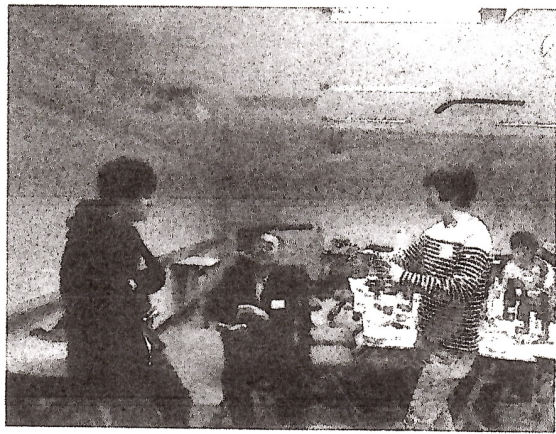
場の実務の在り方が研究のテーマ。1級建築士の清水さん、30年以上デザイン目線で取り組んだ街づくりを経済

的な目線で学び直す事がテーマだ。市田柿の新規生産での初期投資を抑えて取り組む活動

立支援局で臨床心理士の経験を持つ四ノ宮さん。今年から新たに国家資格となる臨床心理士資格をチャレンジしながら改めて高次脳機能障害を含む福祉現場の在り方をテーマに研究。諏訪で「子供との

なってしまうか心配になってしまおう。国内最高齢の80代で博士号を取得した東海学園女子短大名誉教授の尾関清子さん。生計を立てるために作った人形の出来栄がキッカケで手芸の講師として短大に採用された方だ。日本古来の布とされる「編布(あんぎん)」の発見で考古学者から門外漢扱いされた経験の悔しさでの研究の積み重ねが美り博士に。学校を卒業してから、社会現場での課題や疑問に感じた時期が、新たな楽しい学びのスタートになってほしいと再認した日でもあった。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



大学院の先生との再会での語りは、今の自分を見つめ直す良い機会でもある